

# HP Anywhere

Windows® オペレーティングシステム向け

ソフトウェアバージョン: 9.01

---

## 管理者ガイド

ドキュメントリリース日: 2012年3月 (英語版)

ソフトウェアリリース日: 2012年2月 (英語版)



## ご注意

### 保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

### 権利の制限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

### 著作権について

© Copyright 2012 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

### 商標について

Adobe™は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の商標です。

本製品には 'zlib' 汎用圧縮ライブラリのインターフェースが使用されています。'zlib': Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

AMDおよびAMDの矢印記号は、Advanced Micro Devices, Inc.の商標です。

Google™およびGoogle Maps™は、Google Inc.の商標です。

Intel®, Itanium®, Pentium®, Intel®およびXeon®は、Intel Corporationの米国およびその他の国の登録商標です。

Javaは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

Microsoft®, Windows®, Windows NT®, Windows® XP、およびWindows Vista®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

Oracleは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

## ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかの確認には、次のサイトをご利用ください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの取得登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>(英語サイト)

または、HP Passport のログインページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

## サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。

<http://support.openview.hp.com>

HPソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧ください。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HPソフトウェアサポートWebサイトのサポート範囲は次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポートケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDの登録は、次の場所で行います。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>(英語サイト)

アクセスレベルに関する詳細は、以下のWebサイトにアクセスしてください。

[http://support.openview.hp.com/access\\_level.jsp](http://support.openview.hp.com/access_level.jsp)

## 目次

管理者ガイド.....	1
目次.....	5
このガイドについて.....	7
概要.....	8
HP Anywhereのアーキテクチャー.....	9
ミニアプリ.....	9
実装ワークフロー.....	10
モバイルクライアント.....	11
ホーム.....	12
フロントページ.....	12
設定.....	13
カタログ.....	14
承認役割.....	15
HP Anywhere役割のLDAPユーザーへの割り当て.....	15
管理者コンソール.....	17
管理者コンソールへのログイン.....	17
管理者コンソールのタブ.....	18
Mini Apps.....	18
インストール済みのミニアプリの表示.....	18
ミニアプリの詳細の表示.....	19
ミニアプリのインストール.....	21
Catalog.....	21
Data Source.....	21
Personas.....	22
Settings.....	22
アラートとプッシュ通知.....	24
iOS Devices (Apple)用のプッシュ通知の構成.....	24
Androidデバイス(Google)用のプッシュ通知の構成.....	26
プッシュ通知のトラブルシューティング.....	27
Apple.....	27

Android.....	27
<b>モバイルクライアント構成.....</b>	<b>28</b>
HP AnywhereサーバーのURL.....	28
iOSデベロッパー証明書.....	28
Androidキーストア.....	29
HP Anywhereサポートチームに送信するためのアーティファクト.....	29
WARファイルのデプロイおよびクライアントURLの公開.....	30
<b>エンドユーザーアラート.....</b>	<b>31</b>
アラートルール.....	31
項目のフォロー.....	32

---

## このガイドについて

このガイドでは、管理者がHP Anywhereサーバーをセットアップし、エンドユーザーのモバイルデバイスにミニアプリをダウンロードできるようにする方法について説明します。

また、HP Anywhereの管理者コンソールについても詳細に説明します。

# 第1章

---

## 概要

HP Anywhereは、異なるプラットフォーム(iOSやAndroidなど)のモバイルデバイス(スマートフォンとタブレット)で、IT管理に関する情報やオペレーションを配布したり使用するためのマルチプラットフォームアプリケーションです。HP Anywhereを使用すると、使い慣れたHPソフトウェア製品を新しい方法で動作させることができます。

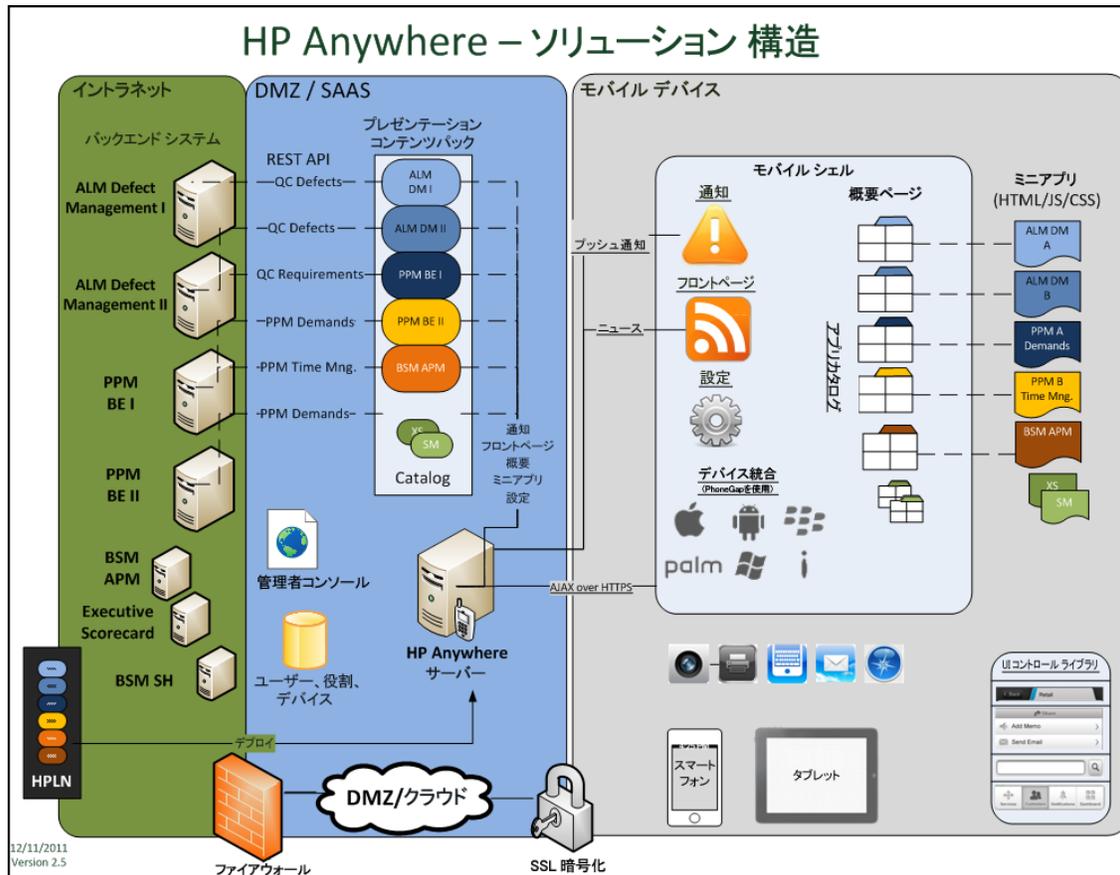
HP Anywhereは次の3つのコンポーネントで構成されています。

- **HP Anywhereサーバー:** IT管理システムのミニアプリバージョンに接続するためのプラットフォームを提供する。
- **HP Anywhereクライアント:** エンドユーザーのデバイスに配布され、インストールされるモバイルアプリケーション。エンドユーザーは、このクライアント経由でHP Anywhereサーバーに接続し、該当するミニアプリのデータを取得する。
- **ミニアプリ:** モバイルクライアントアプリケーション経由で実行時にエンドユーザーのデバイスにダウンロードされるアプリケーション。これらのアプリケーションは、特定のIT管理タスクまたはモジュールに対するインターフェイスを提供する。

HP Anywhereはハイブリッドソリューションです。ミニアプリを一度ビルドすれば、ネイティブアプリケーションのあらゆる利点はそのままに、複数のプラットフォームで実行できます。

## HP Anywhereのアーキテクチャー

次の図は、HP Anywhere のアーキテクチャーの概要を示しています。



HP Anywhereのアーキテクチャーは次の3つの領域で構成されています。

- **バックエンドサーバー** - 各ミニアプリのデータを提供する。
- **HP Anywhere サーバー** - ミニアプリに接続するためのプラットフォームを提供する。
- **ミニアプリ** - 次の2つに分類されます。
  - クライアント側 - エンドユーザーのモバイルデバイス上に表示されるインターフェイス
  - サーバー側 - モバイルデバイスとバックエンド間でプロキシとして機能するインターフェイス

## ミニアプリ

HPLNからミニアプリをダウンロードし、ミニアプリをエンドユーザーが利用できるようにするのは、管理者の仕事です。管理者がこれを行うと、エンドユーザーはミニアプリを自分のHP Anywhereモバイルクライアントにインストールできるようになります。

現在利用できるミニアプリの例として、以下があります。

- HP ALM Defect Management for Smartphone
- HP Executive Scorecard for Smartphone

- HP Executive Scorecard for Tablet
- HP PPM Demand Management for Smartphone
- HP BSM Service Health for Smartphone
- HP BSM Application Performance Management for Smartphone

サポートされているミニアプリの最新バージョンおよびそれに対応するバックエンドアプリケーションについては、<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>のサポートマトリクスを参照してください。

## 実装ワークフロー

このセクションでは、HP Anywhereを実装するために実行する手順を説明します。このシナリオにはミニアプリ開発者、管理者、エンドユーザーの3つの役割が含まれます。

1. **ミニアプリ開発者:** ミニアプリを開発し、HP Live Network (HPLN)という名前のクラウドサービスにアップロードします。
2. **管理者:** HPLNからミニアプリをインストールし、管理コンソールからこれらのミニアプリを有効にします。ミニアプリをインストールし、有効にすると、エンドユーザーはモバイルデバイス上でこれらを表示できるようになります。管理者は、エンドユーザーの役割にしたがってミニアプリを選択します。ミニアプリは、HP Anywhereアプリケーションへの登録時にエンドユーザーが選択したペルソナに基づいて、エンドユーザーのモバイルデバイスに表示されます。
3. **エンドユーザー:** 指定のリンクからHP Anywhereクライアントをダウンロードし、モバイルデバイスでHP Anywhereにログインします。エンドユーザーはカタログから追加のミニアプリを選択できます。

次の図は、HP Anywhereクライアント、サーバー、ミニアプリ間のインタフェースを示しています。



HP Anywhereはシングルサインオン機構をサポートしており、ユーザーを一度だけ認証することで、認証定義がすべてのモバイルアクセスのユースケースに確実に適用されます。

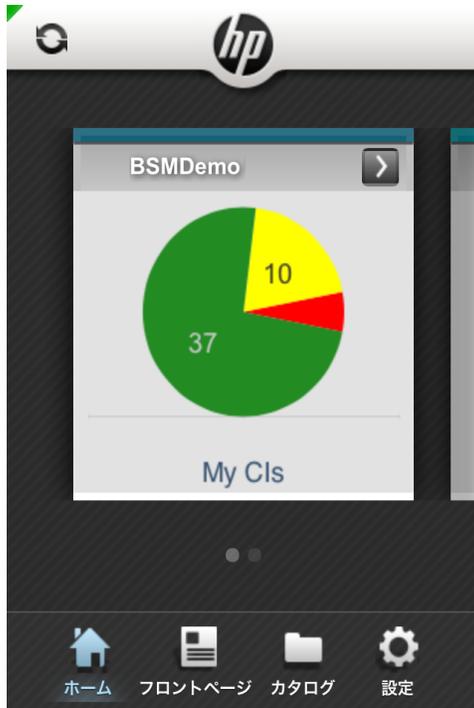
## モバイルクライアント

モバイルクライアントは、以下で構成されています。

- [「ホーム」\(12ページ\)](#)
- [「フロントページ」\(12ページ\)](#)
- [「設定」\(13ページ\)](#)
- [「カタログ」\(14ページ\)](#)

## ホーム

ホームページには、各ミニアプリの活動の集計ビューが表示されます。このビューでは、迅速な決定を行ったり、さらに深くドリルダウンするかどうかを決定したりするのに必要な情報が一目でわかるように提供されます。



## フロントページ

フロントページには、モバイルデバイスにインストールされたさまざまなミニアプリからの重要な項目が表示されます。これらの項目は、ミニアプリ、日付、優先度にしたがってソートできます。

アラートが発生した場合、アラートはフロントページに表示されます。フロントページビューから、エンドユーザーは、アクションを実行できるミニアプリ内のポイントに直接ドリルダウンできます。



## 設定

設定 ページでは、エンドユーザーは各ミニアプリ固有の設定を変更できます。



## カタログ

カタログページでは、エンドユーザーは自分の役割にしたがって提供される既定のミニアプリに加えて、モバイルデバイスにインストールまたはアンインストールするミニアプリを選択できます。



## 第2章

### 承認役割

HP Anywhere は、次の3種類のユーザー役割を実装します。

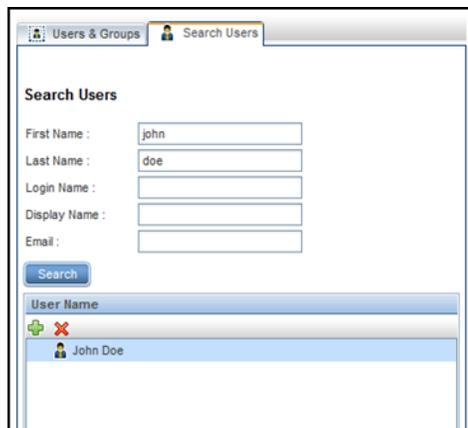
- **Admin:**「[管理者コンソール](#)」(17ページ)へのログイン。
- **BSF\_Admin\_Role:** 役割「BSF\_Admin\_Role」を持つユーザーは、ユーザー管理のUIにログインして、ユーザーの管理とユーザーへの役割の割り当てを行うことが許可されます。
- **Tester:** 役割「Tester」を持つユーザーは、新しいミニアプリをテストできます。新しいミニアプリをインストールした時には、ミニアプリに含まれているすべてのサービスは既定で無効になっています。役割「Tester」を持つユーザーは、管理者ユーザーがこれらの新しいサービスを有効にする前にテストすることができます。

### HP Anywhere役割のLDAPユーザーへの割り当て

HP Anywhere をインストールすると、ユーザーは1人のみ存在し、そのユーザーに'admin'という名前とAdmin'という役割が割り当てられます。

LDAPステージング環境を構成した後には、次の手順にしたがって、実際のLDAPユーザーをHP Anywhere承認役割にマッピングする必要があります。

1. Management UIを開きます。 <http://<url>:<ポート>/bsf>.
2. 仮の管理者ユーザー(名前: **admin**)と、ポストインストール中に管理者が設定したパスワードを使用して、AUM (BSF)にログインします。
3. **[User Management]** タブを選択します。
4. 次に、**[Search Users]** タブを選択します。

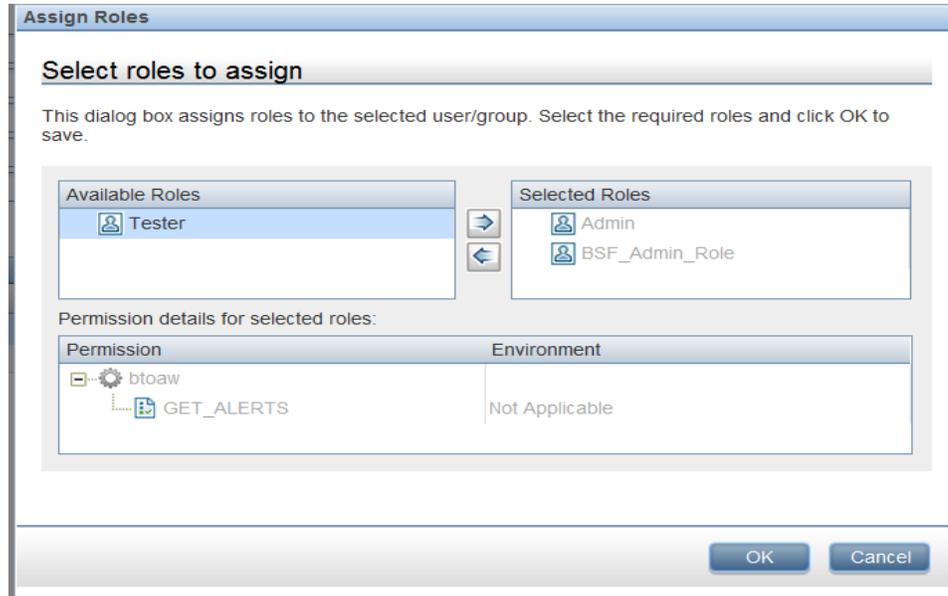


**注:** 検索操作では、大文字と小文字は区別されません。任意の文字を検索する場合、検索でアスタリスク(\*)文字を使用できます。

5. 検索する(LDAP)ユーザーの名前を入力します。

注: 単独のユーザーだけではなく、ユーザーグループに対して役割をマッピングすることができます。

- 右ペインの [Roles and Permissions] で、[Assign Role] を選択します。次のような [Assign Role] ウィンドウが開きます。



- ユーザーに1つまたは複数の役割 (Admin、BSF\_Admin\_Role、Tester) を追加します。

注: 少なくとも1人のユーザーにAdminとBSF\_Admin\_Roleの役割を割り当てる必要があります。これにより、これらの役割を割り当てられたユーザーが「[管理者コンソール](#)」(17ページ)とユーザー管理のUIにログインできるようになります。

## 第3章

---

### 管理者コンソール

管理者コンソールは、HP Anywhere管理者がミニアプリを管理し、構成する中心的な場所です。

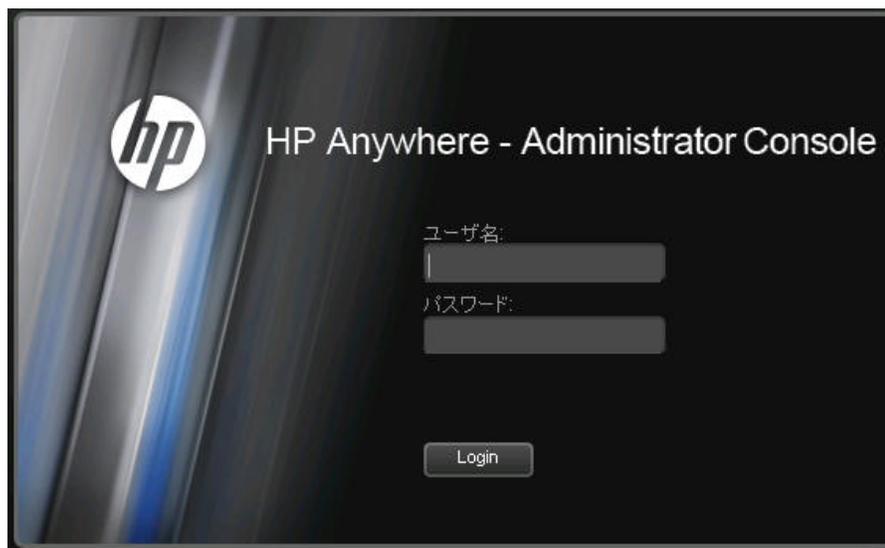
管理者コンソールでは、次の操作が可能です。

- 利用可能なミニアプリの表示と有効化
- 新規ミニアプリのサーバへのインストール
- ペルソナの構成とミニアプリへの関連付け
- バックエンドデータのソースインスタンスの構成
- システム設定の構成

### 管理者コンソールへのログイン

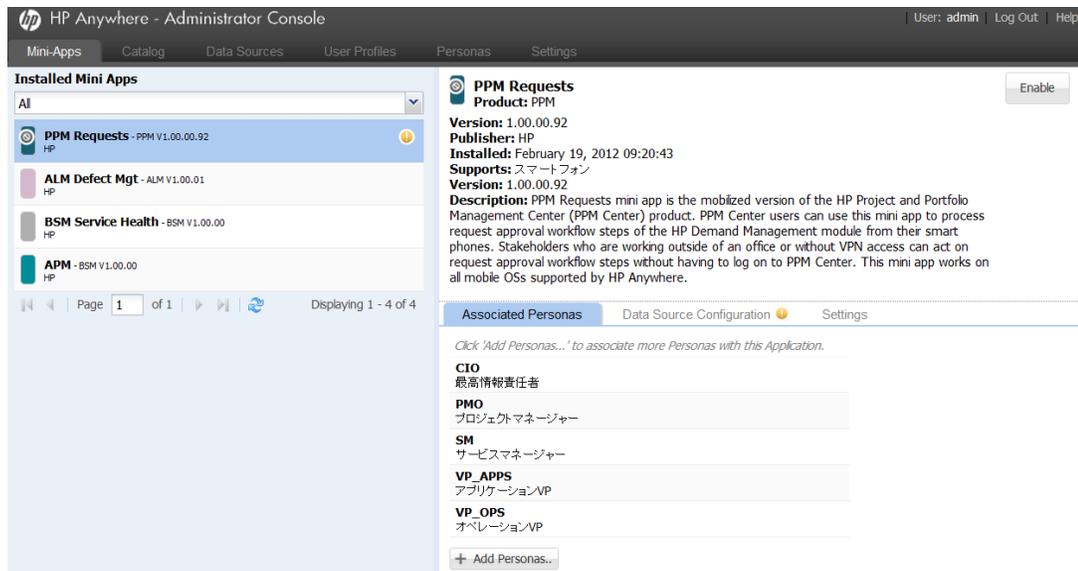
管理者コンソールにログインするには、次の手順を実行します。

1. URL <http://<hostname>:20002/btoa/admin/>に移動します。次のようなログインページが開きます。



2. ユーザー名とパスワードを入力します。

ログインが認証されると、次のような管理者コンソールのメイン画面が開きます。



## 管理者コンソールのタブ

最上部の [Admin Console] ページにある管理者コンソールのタブには、さまざまなHP Anywhereコンソールを管理するためのオプションがあります。各オプションの詳細については、リンクをクリックしてください。

- **Catalog:** HP Live Network (HPLN)にアップロードされている利用可能なミニアプリの一覧を表示する。詳細については、[「Catalog」\(21ページ\)](#)を参照してください。
- **Mini Apps:** ミニアプリの一覧とその詳細を表示します。詳細については、[「Mini Apps」\(18ページ\)](#)を参照してください。
- **Data Sources:** データソースの一覧とそのインスタンスを表示します。詳細については、[「Data Source」\(21ページ\)](#)を参照してください。
- **Personas:** システムで定義されているペルソナの一覧を開きます。詳細については、[「Personas」\(22ページ\)](#)を参照してください。
- **Settings:** GoogleやAppleプッシュ通知パラメーターなどの各種のシステムパラメーター、および各ミニアプリに関連するパラメーターを表示します。詳細については、[「Settings」\(22ページ\)](#)を参照してください。

## Mini Apps

[Mini Apps] タブには、管理者が [Catalog] タブからインストールしたミニアプリの一覧が表示されます。ミニアプリの一覧から、ミニアプリを有効または無効にすることができます。インストール時には、すべてのミニアプリは既定で無効になっています。

ミニアプリを有効にすると、エンドユーザーはモバイルデバイス上で利用できるようになります。

ミニアプリを有効にする前に、関連する構成が設定済みであることを確認しておく必要があります。たとえば、データソースの構成や、必要な場合は関連する設定。

## インストール済みのミニアプリの表示

管理者コンソールウィンドウの左領域には、管理者がHPカタログからインストールしたすべてのミニアプリの一覧が表示されます。

各ミニアプリが、バージョン番号、発行元の名前、製品名とともに一覧されます。

各製品には、複数の異なるミニアプリが用意されている場合があります、それぞれに独自のID (発行元の名前、製品名、バージョン) が付いています。

ミニアプリは、有効または無効の状態にすることができます。ミニアプリを無効にすると、エンドユーザーのデバイスには表示されなくなります。

ミニアプリを無効にするには、ウィンドウの右上隅にある [Disable] ボタンをクリックします。

無効にしたミニアプリを有効にするには、ウィンドウの右上隅にある [Enable] ボタンをクリックします。

**注:** HP Anywhereで実行されるのはミニアプリのアップグレードまたは更新のみです。ミニアプリがアンインストールされることはありません。ただし、ミニアプリの構成を変更したり、必要に応じてミニアプリを無効にできます。

HP Anywhereでは、管理者コンソールとモバイルデバイスの両方で、各ミニアプリは色分けされており、識別しやすくなっています。

**注:** ミニアプリにデータソースが定義されていないと、そのミニアプリ名の横に  記号が表示されます。

## ミニアプリの詳細の表示

管理者コンソールウィンドウの右端には、ミニアプリの詳細領域が表示されています。

この領域の最上部には、ミニアプリの詳細な説明が、Anywhereサーバーサイトへのインストールの日付とともに表示されます。

この説明の下には、次の3つのタブがあります。

- [「Associated Personas」\(19ページ\)](#)
- [「Data Source Configuration」\(19ページ\)](#)
- [「Settings」\(21ページ\)](#)

### Associated Personas

このタブに表示される一覧には、組み込みペルソナ(役割)が含まれています。[Add Personas] ボタンを使用すると、追加のペルソナをミニアプリに関連付けできます。[Ctrl] ボタンを使用すると、複数のペルソナを選択できます。エンドユーザーは、モバイルデバイス上のこの一覧から自分の役割を選択します。

システムに組み込まれている灰色で表示されているペルソナは、更新または削除できません。

ペルソナの関連付けをミニアプリから削除するには、ペルソナ名の横の [X] をクリックします。

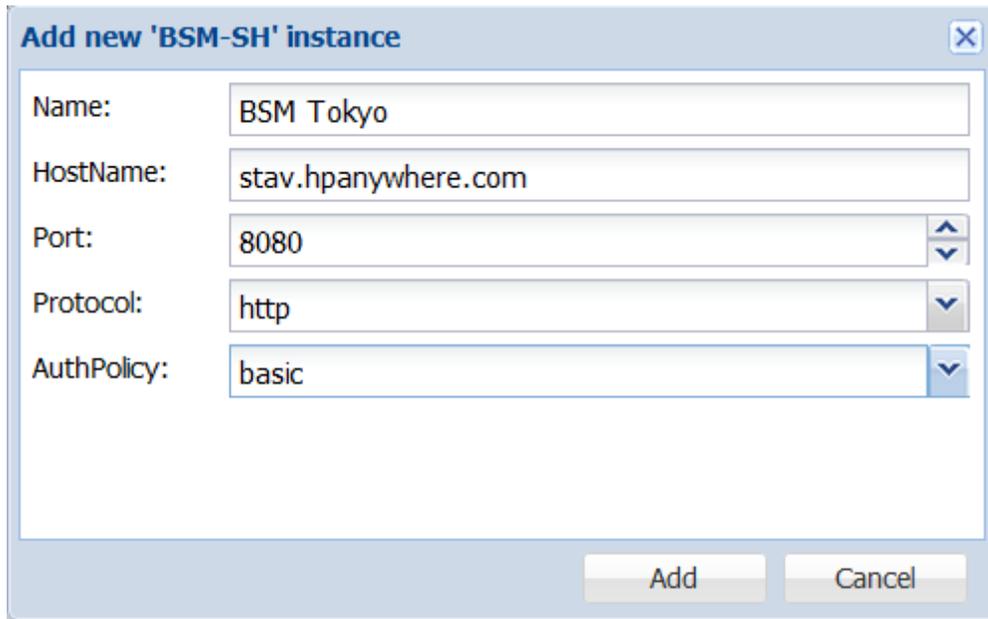
管理者コンソールメニューからペルソナの一覧を管理できます。詳細については、[「Persona」\(26ページ\)](#)を参照してください。

### Data Source Configuration

各ミニアプリ(またはミニアプリのグループ)はHP Anywhereバックエンドに接続されます。ミニアプリは製品に対するプロキシです。[Data Source Configuration] タブで、この接続を構成します。各データソースは複数のミニアプリで利用できます。

[Add Instance] ボタンを使用すると、新しいデータソースを追加できます。

1. 新しいインスタンスのパラメーター (データソースプロバイダー) を指定します。



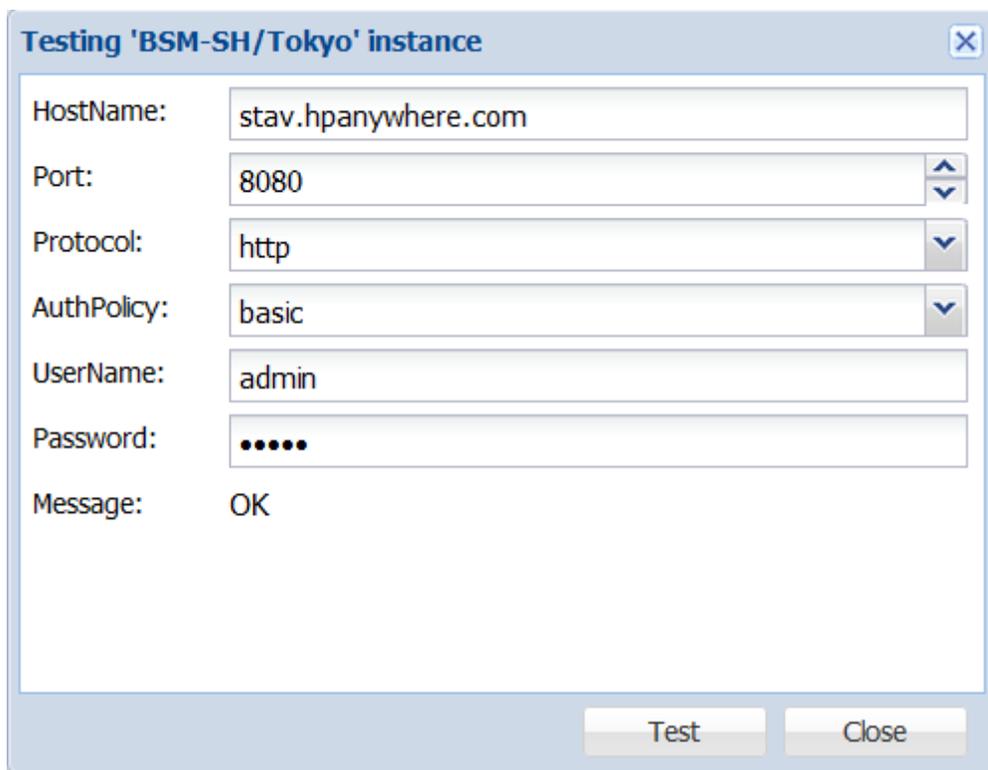
The screenshot shows a dialog box titled "Add new 'BSM-SH' instance". It contains the following fields and values:

Name:	BSM Tokyo
HostName:	stav.hpanywhere.com
Port:	8080
Protocol:	http
AuthPolicy:	basic

At the bottom of the dialog box, there are two buttons: "Add" and "Cancel".

2. 新しいインスタンスを追加したら、[Test] をクリックして、バックエンドとの接続が有効であることをテストします。

[Test] ダイアログボックスには、新たに [User Name] と [Password] の2つのフィールドが表示されます。これらはバックエンドでの識別に使用されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Testing 'BSM-SH/Tokyo' instance". It contains the following fields and values:

HostName:	stav.hpanywhere.com
Port:	8080
Protocol:	http
AuthPolicy:	basic
UserName:	admin
Password:	•••••
Message:	OK

At the bottom of the dialog box, there are two buttons: "Test" and "Close".

3. User NameとPasswordを入力し、[ Test] をクリックします。

### Settings

このタブでは、ミニアプリのグローバル設定を構成できます。このタブは空の場合もあります。各ミニアプリの構成に必要な設定の詳細については、ご使用のミニアプリの該当する『Getting Started Guide』を参照してください。

## ミニアプリのインストール

ミニアプリを有効化すると、次の手順でHP Anywhereサーバーにインストールできます。

1. ミニアプリを選択して、[Details] 領域の隅にある [Install] ボタンをクリックします。確認メッセージが開きます。
2. [Yes] をクリックしてインストールを承認します。

ミニアプリをインストールすると、インストールしたミニアプリには  アイコンが付きます。

## Catalog

HP Live Network (HPLN)にアップロードされている利用可能なミニアプリの一覧を表示します。

管理者は、これらのミニアプリをカタログからHP Anywhereサーバー上にダウンロードしインストールできます。

フィルターのドロップダウンリストから次のいずれかのオプションを選択すると、カタログリストにフィルターをかけることができます。

- [All]: すべてのミニアプリ(インストール済み、およびインストールしていないミニアプリすべて)を表示します。
- [New]: 利用可能な新しいミニアプリで、HP Anywhereサーバーにインストールしていないミニアプリを表示します。
- [Updates Available]: インストールしたミニアプリで、利用可能な更新があるミニアプリを表示します。一覧内ではこれらのミニアプリに更新アイコン  が付きます。
- [Up to Date]: インストールされ、最新バージョンであるミニアプリを表示します。

## Data Source

データソースの一覧とそのインスタンスを表示します。この領域には、[ミニアプリ管理の詳細] 領域の [データソース] タブにある情報と同じ情報が表示されます。[「Mini Apps」\(18ページ\)](#)を参照してください。

データソースによって、データの構造、つまり、データに含まれる情報の種類が定義されます。たとえば、ALM不具合データソースは、ホスト名、ポート、プロトコル、認証ポリシーの4種類の情報で構成されます。1つのデータインスタンスによって、1つの情報コンテンツが定義されます。例:

HostName:	<input type="text" value="stav.hpanywhere.com"/>
Port:	<input type="text" value="8080"/>
Protocol:	<input type="text" value="http"/>
AuthPolicy:	<input type="text" value="basic"/>

モバイルデバイス上で、エンドユーザーはミニアプリがデータを取得する関連データソースインスタンスを選択します。

各ミニアプリは、独自のデータソース情報を定義します。関連データソースは、ミニアプリのインストールの一環として追加されます。

データソースインスタンスは追加、削除、編集できます。データソースインスタンスを変更すると、このデータソースを使用するすべてのミニアプリは自動的に新しい情報で更新されます。

新しいデータソースインスタンスを追加するには、[Add Instance...] をクリックします。

新しいデータソースインスタンスの追加の詳細については、[「Mini Apps」\(18ページ\)](#)の「データソース構成」を参照してください。

## Personas

システムで定義されているペルソナの一覧を開きます。システムには次の2種類のペルソナがあります。

- **組み込み (灰色で表示)**: システムに備えられているペルソナ。これらのペルソナを削除したり、詳細を変更することはできません。
- **カスタム (黒色で表示)**: 管理者が追加し、カスタマイズしたペルソナ。

新しいペルソナを追加するには、次の手順を実行します。

1. [Add Persona] をクリックし、[Name] フィールドにペルソナ名を入力します。[Name] フィールド (キー) は自動的に大文字に変換され、スペースは使用できません。
2. [Description] フィールドに、このペルソナの説明を入力します。エンドユーザーのモバイルデバイス上に役割名として表示されるテキストなので、この説明の入力は必須です。

**注:** エンドユーザーのデバイス上にはペルソナ名は表示されず、[Description] テキストのみが表示されます。

カスタマイズしたペルソナを削除するには、次の手順を実行します。

1. ペルソナ名の横の [X] をクリックします。
2. 削除を確認するメッセージが表示されたら、[Yes] をクリックして削除します。

## Settings

[Settings] 領域では、システム全体に影響する一般的な設定を定義します。

[General] カテゴリは HP Anywhere 設定パラメーター用で、このカテゴリにはプッシュ通知に関連する設定が含まれています。

ミニアプリごとに独自のシステム設定を行うことができます。これらは、管理者コンソールの [Settings] 領域に表示されます。

たとえば、"**settings.xs.content\_name**"は、XSミニアプリに関連するパラメーターを含むカテゴリの名前です。

一部のカテゴリは、同じ主題に関連するパラメーターを含む異なるセクションに分類されます。

次の画面は、HP Anywhereの [General] カテゴリのパラメーター例を示しています。

各パラメーターのツールヒントには、パラメーターの説明、およびこのパラメーターへの変更が有効になる時期が表示されます。

パラメーターの値を更新するには、次の手順を実行します。

1. 関連するカテゴリを選択します。
2. パラメーターフィールドに新しい値を入力するか、ドロップダウンメニューから新しい値を選択します。
3. [Save] をクリックします。

**注:** 必須パラメーターは赤色で表示されます。例:

## 第4章

---

### アラートとプッシュ通知

HP Anywhere にはアラートとプッシュ通知のエンジンが備えられています。この機能により、エンドユーザーは、受信登録した情報についてのプッシュ通知をモバイルデバイス上で受信できます。

HP Anywhereでは、次のデバイスタイプ用のプッシュ通知がサポートされています。

- iOSデバイス (iPhone、iPad)。 [「iOS Devices \(Apple\)用のプッシュ通知の構成」\(24ページ\)](#)を参照してください。
- Androidデバイス。 [「Androidデバイス \(Google\) 用のプッシュ通知の構成」\(26ページ\)](#)

プッシュ通知を使用するには、該当するセクションの説明にしたがって各デバイスタイプを構成します。

**注:** HP Anywhereサーバーから送信されるプッシュ通知には、GoogleやAppleサービスにアクセスするためのインターネット接続が必要です。

### iOS Devices (Apple)用のプッシュ通知の構成

iOSデバイス用のプッシュ通知を構成する場合、事前にApple Push Notifications Service (APNS) 証明書を取得しておく必要があります。APNS証明書ファイルとパスワードの取得方法の詳細については、[「モバイルクライアント構成」\(28ページ\)](#)を参照してください。

プッシュ通知を構成するには、次の手順を実行します。

1. 管理者コンソールで、[Settings] タブを選択します。

**General**  
*Edit Category's settings:*

**Timer Frequency**

Alerts frequency for Front Page data	30
Storage Frequency of HPLN Manager Meta...	24

**Google Push Notifications (C2DM)**

HTTP Proxy URL	
HTTP Proxy port	
C2DM Authentication Code	
C2DM Thread Pool Size	20

**Apple Push Notifications (APNS)**

Enable Feedback Service Timer	True
Feedback Service timer schedule expression	0 0 0 * * *
APNS Certification File Path	
APNS Certificate Password	
SOCKS Proxy URL	
SOCKS Proxy port	
APNS Thread Pool Size	20

2. 次のフィールドの値を設定します。
  - a. APNS Certification File Path – このフィールドには、ファイルへの完全パス (例: C:\myCert.cer) を指定します。
  - b. APNS Certificate Password
  - c. SOCKS Proxy URL (オプション)
  - d. SOCKS Proxy port (オプション)
3. 次のようにJMXを使用して接続をテストします。
  - a. 以下のURLに移動します。  
**http://<ホスト>:<ポート>/ViewObjectRes//Server%3Atype%3DPushNotifications**
  - b. [testAPNSConnection] をクリックします。
  - c. 次のメッセージが値 true とともに表示されることを確認します。

```
The operation returned with the value:
true
```

接続テストが失敗したら、「アラートとプッシュ通知」(24ページ)のトラブルシューティングのヒントを試してください。

## Androidデバイス (Google) 用のプッシュ通知の構成

Androidデバイス用のプッシュ通知を構成する場合、事前にCloud To Device Messaging Framework (Google C2DM) 認証コードを取得しておく必要があります。C2DM認証コードの取得方法についての詳細は、「モバイルクライアント構成」(28ページ)を参照してください。

プッシュ通知を構成するには、次の手順を実行します。

1. 管理者コンソールで、[Settings] タブを選択します。

**General**  
*Edit Category's settings:*

**Timer Frequency**

Alerts frequency for Front Page data	30
Storage Frequency of HPLN Manager Meta...	24

**Google Push Notifications (C2DM)**

HTTP Proxy URL	
HTTP Proxy port	
C2DM Authentication Code	
C2DM Thread Pool Size	20

**Apple Push Notifications (APNS)**

Enable Feedback Service Timer	True
Feedback Service timer schedule expression	0 0 0 * * *
APNS Certification File Path	
APNS Certificate Password	
SOCKS Proxy URL	
SOCKS Proxy port	
APNS Thread Pool Size	20

2. 次のフィールドの値を設定します。

- a. C2DM Authentication Code
  - b. HTTP Proxy URL (オプション)
  - c. HTTP Proxy port (オプション)
3. 次のようにJMXを使用して接続をテストします。
- a. 以下のURLに移動します。  
**http://<ホスト>:<jmxポート>/ViewObjectRes//Server%3Atype%3DPushNotifications**  
注: 初期のjmxポートは21942です。
  - b. [testC2DMConnection] をクリックします。
  - c. 次のメッセージが値 true とともに表示されることを確認します。

```
The operation returned with the value:  
true
```

接続テストが失敗したら、「[プッシュ通知のトラブルシューティング](#)」(27ページ)のトラブルシューティングのヒントを試してください。

## プッシュ通知のトラブルシューティング

### Apple

**問題:** APNSテスト接続が失敗する

**解決策 1:** インターネット接続を確立するためにSOCKSプロキシを定義する必要がある可能性があります。SOCKSプロキシのURLとポートを設定してから、もう一度やり直してください。

**解決策 2:** Apple証明書ファイルを新しい証明書ファイルに置き換えます。それでも接続が失敗する場合は、証明書をリロードするために管理設定を更新する必要があります (HP Anywhereはスタートアップ時または設定の更新時に証明書を読み込みます)。

### Android

**問題:** C2DMテスト接続が失敗する

**解決策:** インターネット接続を確立するためにHTTPプロキシを定義する必要がある可能性があります。HTTPプロキシのURLとポートを設定してから、もう一度やり直してください。

**問題:** Androidデバイスのユーザーがプッシュ通知を受信しない

**解決策:** Googleアカウントがモバイルデバイス上に設定されていることを確認してください。Androidデバイス上のアプリからプッシュ通知を受信するには、Googleアカウントを設定する必要があります。

## 第5章

---

### モバイルクライアント構成

HP Anywhereをエンドユーザーのモバイルデバイスに実装するには、お客様が独自にモバイルクライアント構成を行う必要があります。

この構成では、サーバーアドレスをカスタマイズし、プッシュ通信を有効にします。

構成を実行するには、次の情報を取得する必要があります。

- [「HP AnywhereサーバーのURL」\(28ページ\)](#)
- [「iOSデベロッパー証明書」\(28ページ\)](#)
- [「Androidキーストア」\(29ページ\)](#)

### HP AnywhereサーバーのURL

HP AnywhereサーバーのURLには、次の形式でポート番号を指定する必要があります。

```
http://<web_address>:<port>
```

例:

```
http://www.<サーバーアドレス>.com:80
```

初めてモバイルクライアントを実行するときは、既定のアドレスとしてこのアドレスが使用されます。エンドユーザーは後でこのアドレスをモバイルデバイス上で変更できます。

### iOSデベロッパー証明書

プッシュ通信を有効にしてiOSデベロッパー証明書を生成するには、次の手順を実行する必要があります。

1. <http://developer.apple.com/programs/ios/enterprise/> (英語サイト) でiOS Developer Enterprise Programにサインアップします。
2. <http://developer.apple.com/ios/my/certificates/howto.action> (英語サイト) に記載されている手順に従って、証明書を生成します。
3. <http://developer.apple.com/ios/manage/bundles/howto.action> (英語サイト) に記載されている手順に従って、com.hp.btoa.<会社名>のバンドルIDを使用してAppleプッシュ通知のアプリIDを生成します。
4. Mac OSキーチェーン (パスワード管理システム) アプリケーションを実行します。
5. ログインキーチェーンを選択します。
6. 証明書カテゴリを選択します。
7. 証明書を選択し、[ファイル] > [項目のエクスポート] オプションを使用してこの証明書をエクスポートします。P12公開鍵暗号標準ファイルが生成されます。
8. P12ファイルをHP Anywhereサポートチームリーダーに送信します。

## Androidキーストア

Androidキーストアの生成は、簡単なプロセスで実行できます。Androidキーストアの生成中は、Googleに接続する必要はありません。

**注:** プッシュ通知を使用するには、有効なGoogle電子メールアカウント (<アプリ名>@gmail.com) が必要です。電子メールアドレスとパスワードをHP Anywhereサポートチームに送信してください。その後、HP Anywhere構成で使用する認証トークンを受信します。

Eclipseを使用してAndroidキーストアを生成する場合は、次の手順を実行します。

1. <http://developer.android.com/sdk/installing.html> (英語サイト) を読みます。
2. <http://developer.android.com/guide/developing/tools/index.html> (英語サイト) からAndroid Development Tools (ADT) をインストールします。
3. <http://www.eclipse.org/downloads/> (英語サイト) からEclipse (ソフトウェア開発環境) をインストールします (Eclipse IDE for Java Developersなどのダウンロードオプションから1つを選択します)。
4. **Eclipse**を起動します。
5. 新しい一時的なAndroidプロジェクトを作成します。
6. プロジェクト名を右クリックして、**[Android Tools] > [Export Signed Application Package]** を選択します。
7. 新しい画面で、**[Next]** をクリックし、**[Create New Keystore]** を選択します。
8. 保存場所を選択しパスワードを指定して、**[Next]** をクリックします。
9. 次の画面で、必要なフィールドに情報を入力して、**[Next]** をクリックします。
10. **[Finish]** をクリックします。
11. サーバーのURL、およびキーストアの作成時に使用した2つのパスワードと共に、新しいキーストアをHP Anywhereサポートチームリーダーに送信します。

**注:** 詳細については、<http://developer.android.com/guide/publishing/app-signing.html> (英語サイト) を参照してください。

## HP Anywhereサポートチームに送信するためのアーティファクト

上記の手順を実行したら、iOSとAndroidシェルを保存したWARファイルを生成するためにいくつかのファイルおよび情報をHP Anywhereサポートチームに送信する必要があります。

iOSの場合は、次の情報を送信します。

- P12証明書 (公開鍵/秘密鍵の証明書を保存したファイル)。
- 開発者名 (例: 「iPhone Distribution: 会社名」)。
- プロビジョニングプロファイル (.mobileprovision拡張子が付いたファイル)。

Androidの場合は、次の情報を送信します。

- キーストアと2つのパスワード。
- キーストアのエイリアス。
- Gmailアドレスとパスワード。

また、モバイルクライアントの既定のサーバーとして使用できるように、サーバーアドレスを送信する必要があります。

上記のすべてのアーティファクトを送信したら、HP AnywhereサポートチームからWARファイルが送信されます。

## WARファイルのデプロイおよびクライアントURLの公開

サポートチームから受信したWARファイルをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. Glassfish管理コンソール(既定では、サーバーアドレスの20001番ポート)にログインします。
2. サイドバーオプションから、[Applications] を選択します。
3. "btoa-client"行に移動して、[Deploy] を選択します。
4. 新しいWARファイルを選択して、操作を確認します。  
これでURLが利用できるようになりました。
5. SMS、電子メール、QR (クイックレスポンス)コード、またはその他の配布方法を使用して、URL <http://www.<サーバーアドレス>.com:80/btoa/client>をエンドユーザーに公開します。
6. これでエンドユーザーは、iPhone、iPad、Androidデバイス上で<http://www.<サーバーアドレス>.com:80/btoa/client>に接続し、認証を実行し、HP Anywhereをインストールできるようになりました。

## 第6章

# エンドユーザーアラート

## アラートルール

各エンドユーザーは、新規または変更されたデータ項目についてのアラートの取得ルールを定義できます。

ルールを作成するには、エンドユーザーは次の例で示すようにモバイルデバイスのフロントページで [アラートの作成] ボタンをクリックします。



アラートは、ユーザーのモバイルデバイスにプッシュ通知として送信されます。

アラートの着信後、ユーザーがプッシュ通知メッセージボックスをクリックすると、HP Anywhereが開いて、関連するデータが表示されます。

## 項目のフォロー

ユーザーがフロントページ項目をスワイプすると、メニューが開きます。このメニューから[この項目のフォロー]を選択すると、フロントページ項目をフォローできます。



アラートが送信される時、以下のルールが適用されます。

1. アラートは、フロントページで返された項目についてのみ送信されます。項目がフロントページに表示されなくなると、その項目がフロントページに再び表示されるようになるまでフォローされなくなります。
2. アラート (ルールまたはフォローしている項目によって) は、アラートルールの作成時にユーザーに表示されるプロパティを変更したときのみ送信されます。
3. アラートは、有効になったサービスに対してのみ送信されます。

